

看護師の腹膜透析（PD）教育体制の再検討

○本田聡子、福留佑子、永利洋子、宮崎久仁子 西2階病棟

Key Word : PD PD外来経験

I はじめに

当院では従来、外来PD患者の緊急時対応は腎内科病棟看護師が行っていたが、2004年より血液透析(HD)室看護師に移行した。HD室看護師はPDの看護経験がない看護師が多かったため、知識や技術の習得目的で1～3日のPD外来研修と技術訓練を行った。しかし、完全に緊急時対応ができるまでには至らなかった。「新しい治療法の知識、技術の習得には、それに関連する技術の習得の場を作ることが必要」¹⁾ であるといわれており、今回、HD室看護師に対し、PD外来経験の機会を増やし、PDの技術・知識の習得を試みたので、報告する。

II 目的

1. 緊急対応を行う看護師のPD外来経験を定期的に行うことで、技術・知識の習得度向上を図る。
2. 緊急対応を行う看護師のPDに対する意識を知り、今後の教育に生かす。

III 対象と背景

<前体制>

2005年4月から2007年3月まで緊急対応をしていた看護師5名で、平均看護師経験は12.4年(平均7～22年)、腎内科病棟経験がある看護師は4名が1名のみで、あとの4名はPD看護経験はなかった。

PD外来経験は、緊急対応当番をする前に、集中して1～3日のみ行った。PDの緊急対応をしていた期間は平均19.2ヶ月であった。

<現体制>

2007年9月現在、緊急対応をしている看護師9名を対象とした。平均看護師経験年数は9.3年(平均6～15年)であり、腎内科病棟経験は5年が1名、2年が1名であった。前体制から引き続き緊急対応当番をしている看護師は1名であり、その他の看護師6名はPD看護経験はなかった。

PD外来経験は定期的に月1回行った。PDの緊急対応をしている期間は平均7.8ヶ月であった。

<PD外来経験>

PD外来担当看護師とペアで、PD外来に勤務し、実際に患者と関わりながら、緊急対応に必要な技術、看護を習得すること

IV 方法

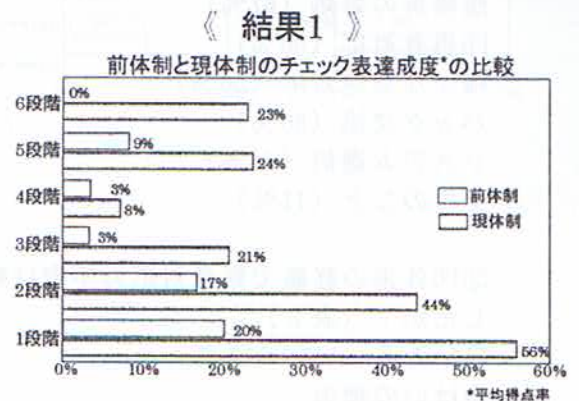
1. PD外来経験を月1回以上定期的に行い、チェック表を用いて知識・技術の習得度を、前体制の看護師と比較検討した。
2. 現体制の看護師にアンケート調査を行い、PDに対する意識を調査した。

<チェック表>

- 1・2段階・・・PDの基本的な技術
 - 3・4段階・・・PD合併症やトラブル
 - 5・6段階・・・PD外来の業務、検査等
- *緊急時対応を行うには1・2段階の習得を目標としている。

V 結果

1. 前体制と現体制のチェック表達成率の比較を示す。



1段階の平均達成率は、前体制は20%、現体制は56%であった。2段階の平均達成率は、前体制は17%現体制は44%であった。3段階の平均達成率は前体制は3%現体制は21%であった。4段階の平均達成率は、前体制は3% 現体制は8%でした。5段階の平均達成率は、前体制は9% 現体制は24%であった。6段階の平均は、前体制は0%現体制23%

結果1のまとめ

知識・技術の習得度は、全ての段階において現体制が前体制に比べ、達成率が高い結果であった。

しかし、緊急対応の基本となる1・2段階を完全に習得した看護師はおらず、より高い段階における達成率は低い結果であった。

2. アンケート調査

現体制の看護師9名にアンケート調査（複数回答可）を行った。

①PD外来の研修をしたかったか？

(表1)

はい8名、どちらでもない1名

●はいの理由

緊急対応をしなければならない(88%)

責任感や危機感(63%)、

技術獲得に関する理由(63%)

患者と関わりたい(38%)

●どちらでもない理由

他の事に興味がある(100%)

②PD外来で経験したいものはあるか？

(表1)

ある9名

●経験したい項目

出口部ケア(89%)

チューブ交換(78%)

腹膜炎の対処(67%)

PD患者対応(56%)

様々な緊急対応(56%)

バッグ交換(56%)

システム選択(44%)

全てのこと(11%)

③PD外来の経験で緊急対応の不安は軽減したか？(表2)

はい6名 いいえ3名

●はいの理由

対応を経験したから(50%)

知識を獲得したから(50%)

患者と関わったから(50%)

緊急対応の見直しとなったから(50%)

●いいえの理由

緊急対応がしていないから(100%)

④PD外来の経験は緊急対応で役にたったか？(表2)

はい5名 いいえ4名

●はいの理由

患者と関わったから(100%)

緊急対応の見直しとなったから(67%)

知識を獲得したから(60%)

緊急対応を経験したから(33%)

●いいえの理由

緊急対応の経験がないから(100%)

⑤PD外来を経験してよかったか？

(表3)

はい9名

●はいの理由

患者と関わったから(89%)

知識を獲得したから(44%)

楽しかった(33%)

技術を獲得したから(22%)

不安が軽減したから(22%)

技術の再確認となったから(22%)

⑥PDについてもっと学びたいか？

(表3)

はい9名

●はいの理由

自分自身のためだから(78%)

緊急対応をするため(67%)

役に立つから(33%)

プラスイメージを持ったから(22%)

技術獲得のため(22%)

業務だから(22%)

結果2のまとめ

現体制の看護師は緊急対応に対する責任を認識し、PD外来で経験したい項目として、緊急時に必要な処置をあげる看護師が多かった。また、患者との関わりを経験することは、看護師自身の不安の軽減だけでなく、実際に役に立っていた。

VII 考察

1. 「新しい治療法の知識、技術の習得には、それに関連する技術の習得の場を作ることが必要」と、いわれているように、PD外来での経験を前体制より増やしたことで、現体制の看護師は、前体制の看護師と比較して、習得度が高い結果となった。前体制のように、短期間の研修のみでは知識・技術の習得は難しく、これらを確実に習得していくには経験を重ねていくことが、より重要であると思われる。

2. 現体制の看護師は技術の習得度は比較的高かったが、知識の習得度が低かった。ベナー²⁾は、「看護の達人を育てるには、教育に加え、実践における教育的な学びが必要である」と述べており、現在のPD外来の経験は技術面では有効であると考えられた。今後は、さらに知識の習得も含めたPD外来での研修方法や勉強会の企画、外部の研修を含め、検討する必要がある。

3. アンケートの結果では、緊急対応に関する答えが多くあった。緊急対応は現体制の看護師にとってPDに取り組む上で、影響を与えていることが考えられる。緊急対応はいつ起こるかわからないため、シミュレーションなどを行い、現体制の看護師をサポートしていく必要がある。

また、PD外来で患者と実際に関わり、実践を繰り返すことで、PDを学ぼうという意欲につながっていた。このことは、PDに対する意識の向上につながった要因のひとつと考えられた。

VIII 結語

患者との関わりを経験し、その経験を重ねていくことは技術の習得・PD看護への意識向上に有効であった。

IX おわりに

今回の調査で、当院看護師へのPD教育における課題が明らかになった。今後は、知識習得の向上をはじめ、教育体制の確立に向け、さらなる検討をしていきたい。

引用文献

- 1) 内田明子：透析室における看護管理，
透析看護第2版p271～275，医学書院2005
- 2) パトリシア・ベナー：看護実践の達人性とは何かそしてどう育成するか，エキスパートナース 17(15)p106～113，2001

《 結果2: アンケート調査 》

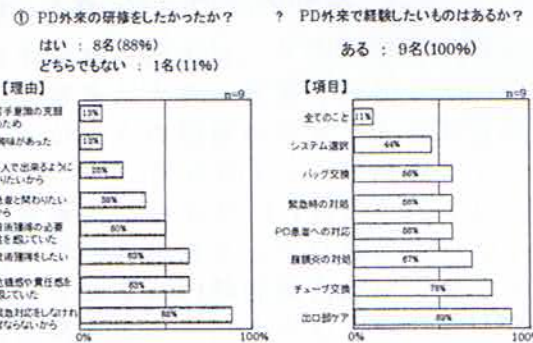


表 1

《 結果2: アンケート調査 》

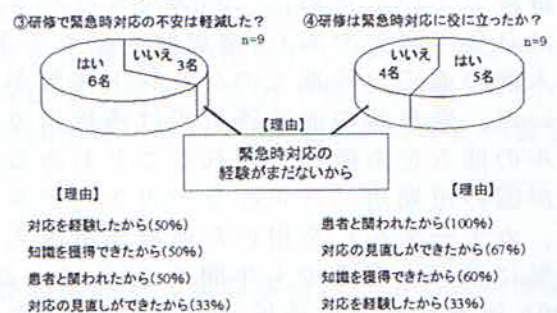


表 2

《 結果2: アンケート調査 》

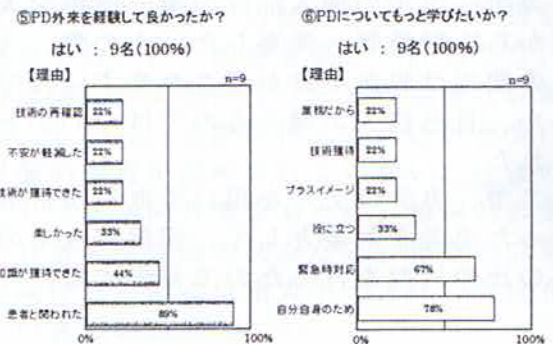


表 3